

33. スケトウダラ *Theragra chalcogramma* (Pallas) 図版14

英名 walleye pollock, Alaska pollock

露名 ミンクイ Минтай

地方名(北海道) スケソウダラ、スケソ、スケトウ、ピンスケ(小型魚)、マゴスケ(小型魚)、ウマスケ(大型魚)

漢字 すけとうだら すけそうだら すけそ 介党鱈、介宗鱈、介宗

アイヌ語名 スンチケエレクシ、サモルンエレクシ

【形態】 体は細長く眼と口は大きい。下あごが上あごより前に出ていること、下あごのひげはないか極めて小さいことが、同じタラ科魚類のマダラ、コマイとの大きな違いである。成魚*では、雄の腹びれが雌より長くなることで、雌雄を判別できる。体の背側*は灰褐色、腹側*は銀白色で、体側にはっきりした黒褐色斑^{はん}がある。全長*60cm。

【生態】 朝鮮半島東岸から北米カリフォルニア南部に至る北太平洋やそれに隣接する日本海、オホーツク海、ベーリング海の大陸棚*とその斜面水域に広く分布する。日本周辺の分布の南限は日本海側が山口県、太平洋側が房総半島付近。

1994年には全世界で約400万トン、1998年には北海道でも31万トンと北海道で2番目に多い漁獲量を誇る重要漁獲対象種で、その資源の多さから、北太平洋の生態系の中で重要な役割を担うと考えられる。

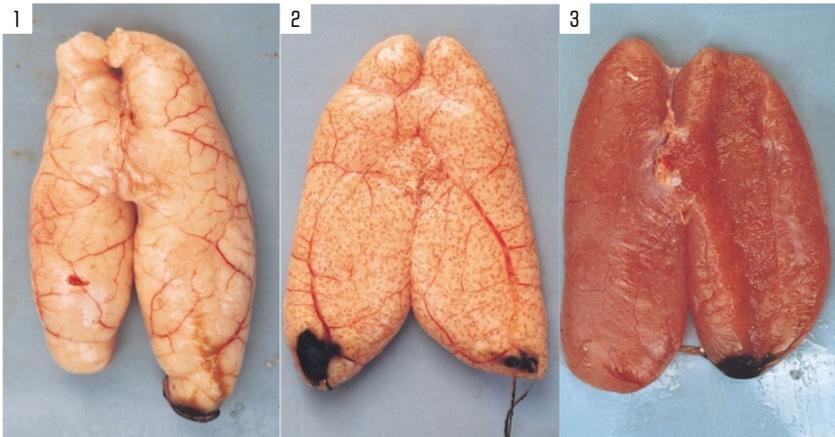
主に水温2～10°Cの所に生息し、2～5°Cに多いが、-0.0°Cや10～16°Cでの漁獲記録もある。成魚は冬から春にかけて産卵場所に集まり、夏から秋に索餌*のために分散して回遊*するという生活を繰り返す。また日中は海底付近に分布し、夜間には中層に浮上するが、季節や年齢によって異なる移動パターンを示す場合がある。

タラという名前から底魚^{そこうお}の印象が強いが、実際には中底層に分布する回遊性魚類。

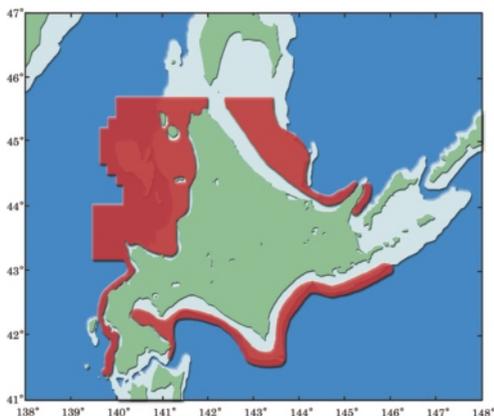
北海道周辺のスケトウダラは大まかにみて、北部日本海、オホーツク海、太平洋の3つの大きなグループに分かれると考えられている。現在、スケトウダラの資源評価は、この3つに根室海峡で産卵するグループを加えた4グループについて行われている。

産卵場は津軽海峡を除く北海道周辺の沿岸から沖合一帯。主な産卵場は、日本海の岩内湾や^{ひやま}松山沖、噴火湾周辺、根室海峡の羅臼沖などの海底地形の入り組んだ所である。産卵親魚は水深100～400m、水温2～5°Cの所に分布する。このふ化に適した水温のほか、卵や仔稚魚*が沖合に流されにくく、幼魚*や稚魚*の成育場である沿岸域にとどまりやすいことが産卵場の条件とされる。

1尾の雌が約1カ月にわたり数日おきに複数回に分けて卵を産む。群れとしての産卵期は約4カ月と長く、噴火湾海域では11月末～翌3月で盛期は1～2月、えりも岬以東の太平洋と根室海峡では1～4月で盛期は2～3月、オホーツク海では3～5月、日本海では12～翌3月で盛期は1～2月であり、



産卵期のスケトウダラの卵巣
(1：真子、2：自付、3：水子)



北海道におけるスケトウダラの漁場

北ほど産卵期が遅い傾向にある。

産卵場では雌と雄は別々の群れをつくり、雄が先に産卵場に到着して雌を待つ。水槽実験の結果から、繁殖行動は性的に活発化した雌雄が群れを離れ、雌雄1対1を基本として行われるとされる。また、鰓^{うきぶくろ}*の近くにある器官から出す音で、求愛^{いかく}や威嚇などを行うと

推測されている。

産卵数^{ひさ}*は尾叉長^{びさ}*42cmで約20万粒、48cmで約30万粒。産卵前の卵巣(真子)はオレンジ色だが、産卵が始まると卵巣中に水子^{みずご}と呼ばれる透明な卵粒が点在するようになり(目付)、産卵を重ねるごとに水子の割合が増えて、産卵終了間際にはほとんどすべてが水子で占められるようになる。

受精卵は直径1.2~1.4mmの分離浮性卵^{めつき}*で、産み出された後ゆっくりと海面に向かって浮上する。ふ化の適水温は0~7°Cで、氷点下および10°C以上では生残率が下がる。

受精直後の卵は水温や波浪などの物理的刺激に弱い、発生が進むと強くなる。ふ化までの日数は水温2°Cで約26日、4°Cで約20日。ふ化仔魚^{しぎよ}*は全長3.5~4.3mmで、沿岸域の表層付近に分布する。夏ごろに尾叉長7cmくらいになり生活の場を海底付近へと移し、その後は成長に伴って徐々に沖合に移動する。

北海道の太平洋側では満1歳で尾叉長約15cm、満2歳で20~25cm、満3歳で30cm前後に成長する。日本海では成長はこれよりやや遅い。初めて性成熟^{しせき}*する年齢と尾叉長は、おおむね太平洋では3歳、33cm以上、日本海では3歳、30cm以上であり、大部分の魚が性成熟するのは太平洋では5歳、約43cm、日本海では5歳、約38cm。

スケトウダラの年齢は耳石^{じせき}*の年輪で調べる。北海道周辺の漁獲物はほとんどが12~13歳以下の魚だが、北海道の太平洋側で23歳、ベーリング海では28歳の記録がある。

スケトウダラの仔魚や全長14mm前後までの稚魚はカイアシ類^{しせき}*のノープ

リウス*幼生*を餌とする。その後は海域や季節によって異なるが、カイアシ類、オキアミ類*、ヨコエビ類*などのほか、魚類(スケトウダラの幼魚など)、小型のイカ類もとるようになる。スケトウダラは下あごが上あごより前に出ていることや、眼の構造が上方をよく見ることができるようになっていることから、マダラやコマイと異なり、底生生物ではなく浮遊性の餌をとるのに適応しているといえる。